

国土交通省 | 天竜川上流河川事務所



DATE: 平成30年1月26日

お待たせしました！
約5年ぶりの新刊！
余冊配布今回もやります

**語りつぐ天竜川 第63巻『三峰川で生まれ育った鉄線蛇籠』
発刊のお知らせ及び贈呈式開催のお知らせ**

1. 概 要

かつて洪水被害の多かった三峰川と伊那市美篤青島を舞台に開発された、丈夫でコンパクトかつ機能性に優れた通称「北原式鉄線蛇籠」。その開発秘話から、地域の水防や防災のあり方を問う内容となっています。「ものがたり」風の仕立てや聖牛模型の作り方など、子どもたちにも楽しんでもらえる1冊に仕上がりました。

.....—..... **伊那市長への贈呈式**—.....

著者の北原富美子さんを迎え、伊那市長への贈呈式は下記の日程で行います。

日時：平成30年1月30日（火）16：30～17：00

会場：伊那市役所4階 応接室

本書籍は、図書館などに配布した余冊を無料で配布いたします。（※郵送の場合は送料のみご負担下さい）詳細は、資料3「配布案内」をご覧ください。在庫には限りがございます。あらかじめご了承ください。

3. 資 料
- 資料1 「3分で知る」語りつぐ天竜川シリーズ 第63巻
 - 資料2 「三峰川で生まれ育った鉄線蛇籠」コピー（一部抜粋）
 - 資料3 配布案内
 - 資料4 「語りつぐ天竜川シリーズ」既刊一覧
- なお、下記当事務所ホームページでは、全文を読むことができます。

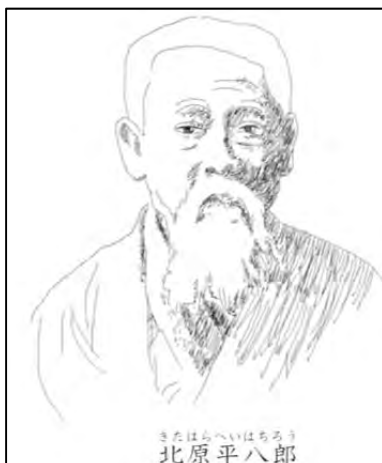
4. 解 禁 指定なし

5. 配 布 先 このお知らせは、下記記者クラブ同時配布。
伊那記者クラブ
飯田市役所記者クラブ
駒ヶ根市役所記者クラブ

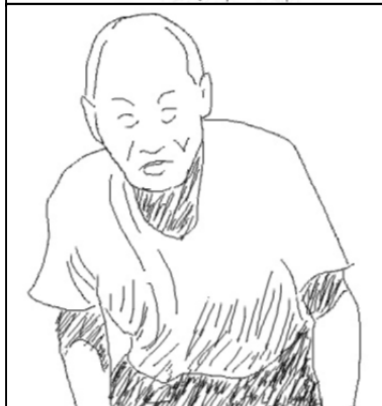
6. 問合せ先 国土交通省 中部地方整備局
天竜川上流河川事務所 調査課長 加藤 博
TEL：0265-81-6415（課代表）



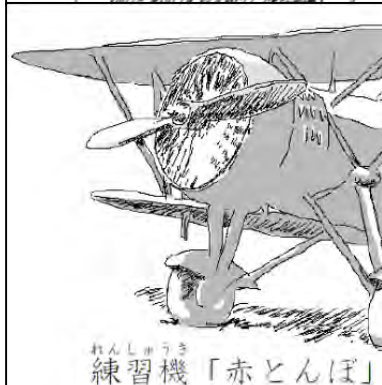
「3分で知る」語りつく天竜川シリーズ 第63巻



① 北原平八郎は伊那市美篤青島のひとつ。大島二番井を開発し、美篤に豊かな水田農地をもたらしました。地域の英雄になったものの、長引いた難工事で、個人の資産を全て開発に使ってしまったので、自分の財産（農地など）を失い、おおきな借金を作ってしまった。



② その孫、繁雄は丈夫な体と利発な青年に育ち、河川工事を仕事に猛烈に働きました。当時使っていた鉄線蛇籠に不満を持ち、独自の「北原式鉄線蛇籠（通称）」を開発。その製造工場と、河川工事専門の建設会社「北原組」を立ち上げました。



③ 戦争が始まると鉄は使えなくなり、工場も建設会社も休止。陸軍からの呼び出しで、伊那飛行場の建設に奔走することになります。建設に3ヶ月という、おどろくような急速施工に繁雄の建設技術は生かされたのです。



④ 戦争も終わり、工場と建設会社を再開。この工場と建設会社は地域に雇用を生み出すばかりではなく、河川工事の技術者集団がいることで、暴れ三峰川から地域を守る「水防災力」の底力を生んでいたのです。

そうそう、平八郎おじいさんの借金は繁雄が全て返済しましたよ。

北原 富美子 (きたはら ふみこ)

- ・大正 14 年 3 月 1 日 高遠町藤沢に生まれる。
- ・伊那高等女学校 (現 長野県伊那弥生ヶ丘高等学校) から長野県松本女子師範学校 (現 信州大学教育学部) 卒業
- ・諏訪市中洲小学校から戦後、高遠町高遠中学校、高遠町藤沢中学校で教鞭を執る
- ・伊那市青少年補導員、民生委員など歴任



三峰川で生まれ育った鉄線蛇籠

平成 29 年 12 月発行

企画・発行 / 国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所

〒399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南 7-10

TEL 0265-81-6415

著者 / 北原 富美子

〒396-0111 長野県伊那市美篤青島

編集 / 国土交通省 中部地方整備局 天竜川上流河川事務所

印刷 / ユニプリント株式会社

〒399-3302 長野県下伊那郡松川町生田 900-1

TEL 0265-34-1515

三峰川で生まれ育った
鉄線蛇籠

北原富美子

三峰川で生まれた育った鉄線蛇籠

北原 富美子

目次

本編	く 伊那市美篁青島の北原家と三峰川の治水	く
一、	はなしの始め	5
二、	三峰川の水利利用と伝兵衛	8
	(一) 六道一番井	8
	(二) 伊東伝兵衛	9
	(三) 大島二番井	10
三、	北原平八郎と大島二番井の改築	10
四、	治水技術と折りたたみ式蛇籠と北原繁雄	14
	(一) 三峰川沿川の洪水と防御	14
	(二) 三六災害	17
	(三) 北原繁雄	19
	(四) 蛇籠	20
	(五) 聖牛(牛杵)	22
(六)	折りたたみ式鉄線蛇籠の考案	24

ワゴンコインでつくる中聖牛 1/25モデル	63
-----------------------	----

資料集

資料 (一)	伸縮式鉄線網蛇籠(実用新案)	71
資料 (二)	甲号川崎式金網蛇籠	75
資料 (三)	社団法人 全国建設業協会 表彰(北原組)	80

挿し絵

本編、ものがたり シゲオの挑戦	加藤 博
ワゴンコインでつくる中聖牛	清水 茜

(七)	北原組	29
五、	戦時中の受難、伊那飛行場の建設	31
	(一) 軍からの極秘指令	31
	(二) 飛行場の建設へ	33
	(三) 飛行場の完成と関連施設の整備	34
	(四) 伊那飛行場の稼働	34
	(五) 終戦と混乱	35
六、	その後の鉄線蛇籠	36
	(一) 北原組と蛇籠生産の再興	36
	(二) ニセモノ蛇籠	37
	(三) 晩年	37
	(四) 北原繁雄という人	38
七、	編集を終えて	40
	(一) 北原式鉄線蛇籠の保全	40
	(二) 繁雄から学ぶ水防災	41
	ものがたり シゲオの挑戦「北原式鉄線蛇籠かご」	45
	三峰川(美篁)の水を巡る案内マップ	60

三峰川で生まれた育った鉄線蛇籠

伊那市美篤青島の北原家と三峰川の治水

一、はなしの始め

北原富美子（ふみこ）さんのお宅は「ナイスロード」という伊那市役所から東にのびる新しくできた道路（市道環状南線・平成七年十二月完成）から少し入った美篤青島にある。ナイスロードの「ナイス（NICE）」とは、NEW・I・N・A・COMMUNITY・EASYの頭文字を取ったのネーミングだという。同じ青島に住む矢島信之さんは、道路の名称を付けるのなら近くを流れる三峰川（みぶがわ）の堤防沿いであることから「霞堤街道」にしようという活動をしている。また、この青島地区はホームセンターや家電大型店舗のある境区や上新田区の隣にあって、少し雰囲気が違う。その理由を探すと、田園地帯であること以外に看板類がないことに気がつくだろう。南・中央アルプスを遠景に三峰川がつくった段丘崖、扇状地、三峰川の水での美田、霞堤防と水防林（桜堤）としての桜並木、そして集落の景観は本当に美しい。

さて、このナイスロード、いや霞堤街道を一本奥に入るとうねったり折れ曲がったりする昔ながらの小径があり、この

道沿いのきれいに手入れされたお庭の家が北原さんのお宅だ。

玄関のベルを鳴らしてドアを開けると、この地方でたまに見かける、とても広い玄関におどろき、小さいいな身なりとしっかりとした口調で「北原でございます」とあいさつされたおばあさまが、この話の語り部である北原富美子さんだ。お歳は九二歳というが、やや曲がった腰を差し引けば、とてもその歳だとは思えない若さである。

「繁雄おじいさんは家にある古い資料を調べるのが好きだね。調べてわかったことを詳しく話してく

七、編集を終えて

（一）北原式鉄線蛇籠の保全

北原組も蛇籠工場もなくなり四〇年以上経過した。現在の天竜川や三峰川では、玉石を積み上げて裏側をコンクリートで充填した玉石護岸堤防が主流となり、蛇籠が残っている箇所もわずかか

なっている。

その蛇籠の多くは機械製作のものだが、北原式鉄線蛇籠の実物を見てみたいと色々探したところ、二箇所を確認することができた。

一箇所が三峰川の榛原河川公園にある



写真 23 : 北原式鉄線蛇籠 (榛原河川公園)

もので、設置時期は不明だが北原式の前面に北原式ではないタイプの蛇籠が北原式の蛇籠を覆うように二重に重ねてある。三峰川サイクリング・ジョギングロード脇から容易に観察できる上、保存状態も良好である。北原式ではない蛇籠との比較ができるのも好条件だ。

もう一箇所は平成二八年度の三峰川の堤防を新たにつくる工事で発見された古い堤防である。この堤防は北原式鉄線蛇籠でつくられていた。支川の新山川が三峰川に合流する場所で、現在建設中の上伊那広域連合の「新ごみ中間処理施設」の近くである。ここも三峰川サイクリング・ジョギングロード脇である。

三峰川沿いの広々とした景観を楽しみつつ、竜東橋と三峰川橋をぐるりとまわるサイクリング・ジョギングロードは、多くの市民に利用されている。少し寄り道をしていただき、確認された二箇所に観察できる北原式鉄線蛇籠と、きっちり詰められた玉石の技巧を見ていただきたい。

三峰川のみならず、天竜川やその多くの支川で活躍したこの蛇籠を、この地域の治水史の生きた教材として後世に伝えるべく、良好な状態で保全をしていきたいものだ。

地域の安全のために尽くした先人たちの想い、いまの洪水



図 1 : 伊那市美篤付近 (等高線は 5m ピッチ)

ものがたり シゲオの挑戦 「北原式鉄線蛇かご」



北原シゲオ、青島に生まれる

明治二三年八月の暑い夏のさかり。

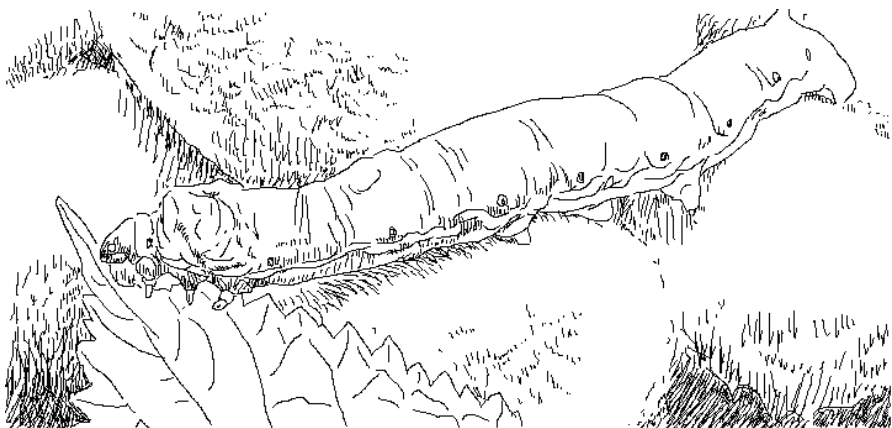
美篤村青島（いまの伊那市美篤青島）の北原家で長男シゲオが生まれます。

父は喜太郎、母は「たけ」。

シゲオは健康で丈夫な身体をもち、すくすくと育っていきました。

北原家は屋号を「糸屋」といい、江戸時代から生糸の生産工場を経営していました。

生糸は蚕のまゆを糸にしたもので、絹糸（シルク）とも呼ばれ、丈夫さと軽さ、光沢を兼ね備えた高級な服の材料として取引されていました。三峰川の近くにある青島の田んぼもたくさん持っている、裕福な家庭でした。



ワンコインでできる中聖牛 1/25モデルのつくり方

用意するもの

- 木製の丸棒 (直径6mm, 長さ900mm) 3本
- 針金 (直径0.7mm, 長さ 5m くらい)
- はさみ • カッター • カッターマット • プラスドライバー

1. 丸棒を切る

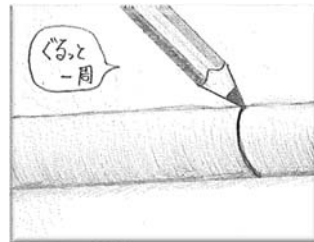
<必要な本数とそれぞれの長さ>

形状寸法 (実際長さ)	本数	摘要
300mm (7.5m)	3	棟木:1, 桁木:2
180mm (4.5m)	4	前合掌木:2, 砂払木:1, 前梁木:1
164mm (4.1m)	2	前立木:1, 中梁木:1
144mm (3.6m)	3	中合掌木:2, 後梁木:1
108mm (2.7m)	2	後合掌木:2

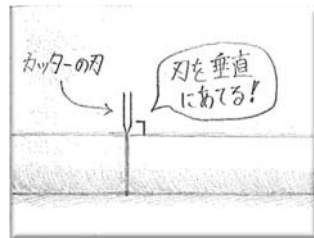


丸棒を切るポイント

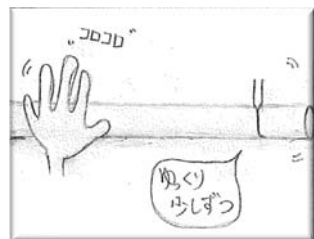
① 丸棒に切りたい長さの印をつけます。
ぐるっと一周線を引きます。



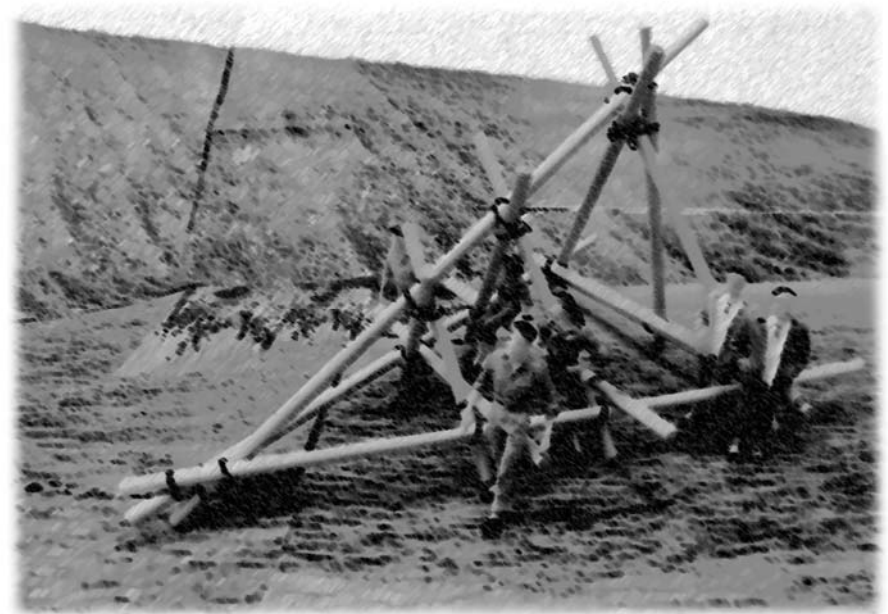
② カッターマットの上に丸棒を置いて、
つけた印に沿ってカッターの刃を垂直にあてます。



③ 印からズレないように、丸棒にカッターの刃を少しだけ
くい込ませます。それをぐるっと一周できたら、丸棒
をゆっくり回しながら少しずつ切っています。



ワンコイン(500円)で できる中聖牛1/25モデル



語りつぐ天竜川 第63巻「三峰川で生まれ育った鉄線蛇籠」配布のご案内

1. 手渡し配布

以下の場所で配布いたします。必ず事前に連絡の上、ご来所ください。

- ①天竜川上流河川事務所 調査課
〒399-4114 長野県駒ヶ根市上穂南 7-10 TEL : 0265-81-6415
- ②天竜川上流河川事務所 伊那出張所
〒396-0026 長野県伊那市西町 5171-2 TEL : 0265-72-2734
- ③天竜川上流河川事務所 飯田河川出張所
〒395-0821 長野県飯田市松尾新井 6753 TEL : 0265-22-3654
- ④天竜川上流河川事務所 小渋川砂防出張所
〒399-3502 長野県下伊那郡大鹿村大河原 892 TEL : 0265-39-2301
- ⑤天竜川上流河川事務所 三峰川砂防出張所
〒396-0211 長野県伊那市高遠町西高遠 631 TEL : 0265-94-2059
- ⑥天竜川上流河川事務所 飯島砂防出張所
〒399-3702 長野県上伊那郡飯島町飯島 2527-3 TEL : 0265-86-2159
- ⑦天竜川上流河川事務所 遠山川砂防出張所
〒399-1312 長野県飯田市南信濃八重河内 209-5 TEL : 0260-34-2376
- ⑧天竜川総合学習館かわらんべ
〒399-2431 長野県飯田市川路 7674 TEL : 0265-27-6115

2. 郵送による配布

下記連絡先までお問合せいただき、①お名前②ご住所（郵送先）をお伝え下さい。

ゆうメール（規格内・250gまで）で郵送いたします。（236円）

【問合せ先】

天竜川上流河川事務所 調査課

〈調査課〉電話：0265-81-6415（課代表）

3. 注意事項

- ・在庫には限りがございますので、必ず事前にご連絡をお願いいたします。
 - ・手渡し及び郵送に関わらず、お一人様1冊までとし、2冊以上は承っておりません。
- ご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

「語りつぐ天竜川」 目録

- | | | | |
|-----------------------------|----------------|---|--------------------|
| 1. 伊那谷の気象 | 米山 啓一 著 | 34. 天竜川の災害伝説 | 笹本 正治 著 |
| 2. 天竜川上流域の立地と災害 | 北澤 秋司 著 | 35. 天竜川の災害年表 | 笹本 正治 編 |
| 3. 天竜川に於ける河川計画の歩み | 鈴木 德行 著 | 36. 天竜川水運と樽木 | 村瀬 典章 著 |
| 4. 総合治水の思想 | 上條 宏之 著 | 37. 水辺の環境を守る | 桜井 善雄 著 |
| 5. 総合治水と森林と | 中野 秀章 著 | 38. 諏訪湖― 氾濫の社会史― | 北原 優美 著 |
| 6. 伊久間地先に於ける天竜川の変遷 | 松澤 武 著 | 39. 河川工作物と魚類の生活 | 中村 一雄 著 |
| 7. 天竜峡で見た天竜川水位の変遷 | 今村 真直 著 | 40. 天竜川上流域の過疎問題 | 山口 通之 著 |
| 8. 村境は不思議だ | 平沢 清人 著 | 41. 資料が語る 天竜川大久保番所 | 松村 義也 著 |
| 9. 諏訪湖の富栄養化と生物群集の変遷 | 倉沢 秀夫 著 | 42. 天竜川上流 河辺の植物と植生 | 関岡 裕明 著 |
| 10. 諏訪湖の御神渡り | 米山 啓一 著 | 43. 水利開発にみる中世諏訪の信仰と治水 | 藤森 明 著 |
| 11. 理兵衛堤防 | 下平 元護 著 | 44. 横川山巡覧記 ― 『辰野町資料第 87 号』より ― | 辰野町教育委員会 編、赤羽 篤 校訂 |
| 12. 近世 天竜川の治水 ― 伊那郡松島村 ― | 市川 脩三 著 | 45. 天龍川の鳥たち | 福与 佐智子 著 |
| 13. 川筋の変遷 ― 天竜川と三峰川の場合 ― | 唐沢 和雄 著 | 46. 遠山川流域の民俗とふるさとイメージの創造 | 浮葉 正親 著 |
| 14. 伊那谷山岳部の降雨特性 | 宮崎 敏孝 著 | 47. 田切ものがたり | 赤羽 篤 著 |
| 15. 天竜川の橋 | 日下部 新一 著 | 48. カエルと暮して | 山内 祥子 著 |
| 16. 伊東伝兵衛と伝兵衛五井 | 北原 優美 編 | 49. 伊那の冬の風物詩 ざざ虫 | 牧田 豊 著 |
| 17. 天竜川の魚や虫たち | 橋爪 寿門 著 | 50. みんなの三峰川を次世代に | 三峰川みらい会議事務局 編 |
| 18. 天竜川のホタル | 勝野 重美 著 | 51. 三峰川ものがたり三峰川みらい会議 | 北原 優美 著 |
| 19. 天竜川流域の村々 | 松澤 武 著 | 52. 天竜川水系の水質 ― 「泳げる諏訪湖・水遊びのできる天竜川」を目指して ― | 沖野 外輝夫 著 |
| 20. 小渋川水系に生きる ― 人と水と土と木と ― | 中村 寿人 著 | 53. 天竜川の帰化植物たち | 木下 進 著 |
| 21. ものがたり 理兵衛堤防 | 森岡 忠一 著 | 54. 中央構造線読み案内 ― 諏訪から大鹿村地蔵峠まで ― | 河本 和朗 著 |
| 22. 量地指南に見る 江戸時代中期の測量術 | 吉澤 孝和 著 | 55. ふるさとの山 駒ヶ岳ものがたり | 赤羽 篤 著 |
| 23. 土木技術と生物工学 ― 生きものを扱う技術 ― | 亀山 章 著 | 56. 近世信州伊那郡大河原村の自然環境と人間 | 松原 輝男 著 |
| 24. 戦国時代の天竜川 | 笹本 正治 著 | 57. 地名を通して見る 天竜川と人々の暮らし | 松崎 岩夫 著 |
| 25. 天竜川の水運 | 日下部 新一 著 | 58. 伊那谷の土砂動態 | 九津見 生哲 著 |
| 26. 惣兵衛川除 | 市村 咸人 著 | 59. 天竜川と生きて | 下平 長治 著 |
| 27. 紙芝居 開墾堤防 ― 下伊那郡豊丘村伴野 ― | 竹村 浪の人 著 | 60. 明日に伝える三六災害 ― 川路・龍江の水害体験談と子ども達の取り組み ― | 川路・龍江の方々 |
| 28. 昭和 36 年伊那谷大水害の気象 | 奥田 穰 著 | 61. 天竜川の川の碑 | 竹入 弘元 著 |
| 29. 天竜川の淵伝説 ― 『熊谷家伝記』を中心に ― | 笹本 正治 著 | 62. 「東日本大震災」の対応について ～初動対応～復旧・復興に向けて～ | 熊谷 順子 著 |
| 30. 天竜川の源流地帯 | 赤羽 篤 著 | 63. 三峰川で生まれ育った鉄線蛇籠 | 北原 富美子 著 |
| 31. 東天竜 | 三浦 孝美、仁科 英明 共著 | | |
| 32. 天竜河原の開発と石川除 | 塩沢 仁治 著 | | |
| 33. 伊那谷は生きている | 松島 信幸 著 | | |